

## 図書紹介

◎客家—最強の華僑集団：根津 清（1994），217 pp., ダイヤモンド社，東京，定価 1,400 円

東南アジアではどこでも中国系の人々の活躍が目覚ましい。本書によれば「海水の至る所華僑あり」である。海外にいる中国系の人を指して華僑というのだと思っていたが，実は華僑とは中国を意味する「華」と仮住まい（僑居）の民の意の「僑民」を組み合わせた語で「中国以外の地に仮住まいする中国籍の中国人」なのであり，移住先の国籍を取得した中国人は「華人」というのだということを知った。華僑や華人には広東省と福建省の出身者が多く，海南島出身者がこれに次ぐ。東南アジアの中国系の人々と話していると，自分は「ハッカ」だといわれることがよくある。すなわち客家である。いったい客家とは何者なのか，拙い言葉であれこれ聞いても仲々わからなかった。本書はこの疑問に明快に答えてくれる。古くは孫文，近くは先のシンガポール首相のリー・クアンユー，現首相のゴー・チョクトン，お土産で有名なタイガーバーム（萬金油）で財を築いた胡文虎らが客家出身だという。客家の有名人はまだいる。古くは朱子と王陽明，「太平天国の乱」の指導者洪秀全，人民解放軍の指導者朱徳と葉劍英と続く。現代中国の最高実力者鄧小平，首相の李鵬，副首相の鄒家華，前国家主席の楊尚昆も客家だという。台湾の李登輝総統も孫文夫人の宋慶齡と蔣介石夫人宋美齡姉妹も客家ということで，何とも目覚ましい限りである。

広東省の大埔や梅県，福建省の下洋鎮などが客家の故郷である。ここにある，かつて城塞としても機能したという円形あるいは半月形や方形をした数十家族が暮らす土楼という集団住居の話などもあって，この魅力的な誇り高い漢民族の集団の詳細が明らかになる。読めば，華僑・華人との付き合いがより楽しくなる書である。（桜井尚武）